



シリーズ: IGPIの顔~こんな人・こんなチーム~

# 国内MBAの祭典！ ケースコンペティションの舞台裏



樋口 雄也 マネジャー

日本国内におけるビジネススクールの学生の間で、毎年夏に盛大な“お祭り”が開催されています。それは、日本企業が抱える問題をテーマに戦略提言を競う大会である「Japan Business Case Competition (通称: JBCC)」です。

JBCCは、国内ビジネススクール生に対してより実践的な学習の場を提供し有能な経営コア人材の輩出に寄与すること、国内ビジネススクールのバリューアップ・他スクールとの交流活性化を図ることを目的に、2010年にKBS（慶応ビジネススクール）の学生が発起人となりスタートしました。以後、年1回開催されていますが、毎年前年を上回る盛り上がりを見せ、エントリー数では、2010年の第1回大会の20チーム73名から、今年の第8回大会では170チーム623名まで増加し、相当規模のビッグイベントとなっています。

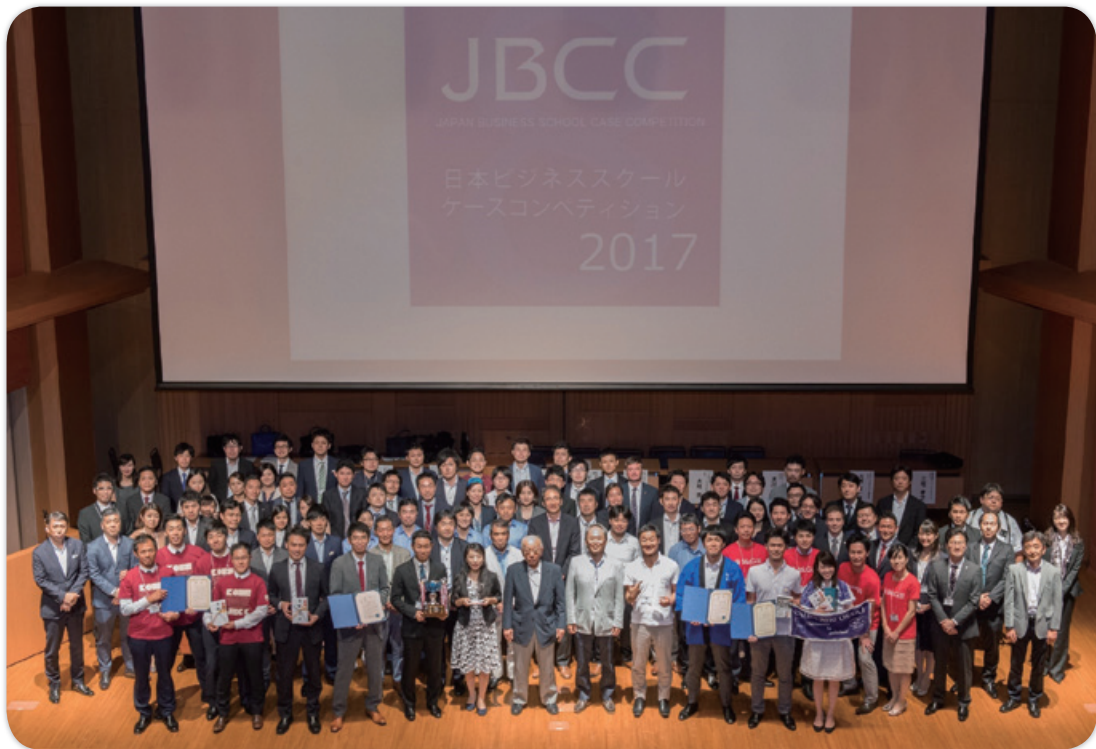
JBCCのビジネスケースは、“経営のリアリティ”をとことん追及している点が大きな特徴だと思います。リアリティのある戦略を立案・実行するためには、事業戦略論や財務会計論等といったビジネススクールの講義で教わるベーススキルをそれぞれ別々に活用するのではなく、それらを有機的・一体的・立体的に捉えた上で、その戦略により従業員や顧客・競合等のステークホルダーがどのように関連し影響し合っていくかについて、如何に解像度を上げて思考できるかが重要になって

きます。JBCCは、このリアルな経営を行うための叡智を磨くことを目標に掲げ、経営の総合力を競い合う大会となっています。

本大会は参加者だけでなく運営についても国内ビジネススクール生により行われていますが、IGPIもJBCCの理念に賛同し、第1回大会から継続して、大きく2つの側面から運営サポートをさせていただいています。

1つ目は、特定非営利活動法人日本ターンアラウンド・マネジメント協会の許斐理事長を始め、複数名の審査員により本選の審査が行われますが、IGPIのパートナーである畠山和彦・木村尚敬が、毎年、この審査員を務めています。IGPIも“経営のリアリティ”を非常に重要視していますが、様々な企業・事業の成功・失敗を目の当たりにしながら経営のリアリティを追及し続けてきた人間の視点から、審査とともに参加者の皆様へのアドバイスをさせていただいています。

2つ目は、木村の統括の下、戦略コンサルティングファーム出身者や会計ファーム出身者・金融機関出身者等、多様なバックグラウンドを持つIGPIのプロフェッショナルスタッフから毎年ボランティアを募り、複数名でサポートチームを組成して大会に向けた事前準備のサポートを行っています。毎年の大会コンセプトの策定から始まり、ケース問題の作成、提出されたケース解答の予選審査まで、数か



月をかけて運営委員の方々と協働をしています。この中でも、ケース問題の作成は毎年困難を極め、IGPIサポートチームとしても、ダイナミックなチャレンジとなっています。経営のリアリティを問うためには、経営の本質は何か、何を論点とすべきか、どのような問い・データを設定すべきか等について運営委員・IGPIサポートチームのメンバー全員で頭から湯気が立つ程考え抜き、侃侃諤諤の議論を毎年繰り返しています。このプロセスを経て出来上がったケース問題に対し、参加者の方々が我々以上に知力・体力を使って練り上げてくださった戦略を拝見・拝聴する瞬間は、何度経験しても目頭が熱くなります。

先に申し上げました通り、JBCCは規模が相当に拡大し、いまや“お祭り”となっている大会ですが、もし、国内ビジネススクール生の方で、参加されたことのない方がいらっしゃいましたら、是非ともチャレンジいただき、“経営のリアリティ”を体感・体得いただければと思います。また、すでに参加いただいた方も含め、皆様が日本、ひいては世界の経済界を牽引する経営人材となられるために、JBCCが少しでもお役にたてれば幸いです。



樋口 雄也  
マネジャー

大手会計系ファームを経てIGPIへ参画。IGPIでは、再生や成長など様々な事業フェーズにおける戦略立案・事業計画策定・経営管理機能構築等に関する支援業務、M&Aアドバイザー業務等に従事。早稲田大学政治経済学部卒